

## 平成29年度 地域福祉活動計画検証チームの内部検証報告

### 1. 地域福祉活動計画検証チーム会議の開催

地域福祉活動計画の推進において、平成 26 年度から計画検証チームを設置し、内部検証作業を実施している。平成 29 年度からは、市の地域福祉計画と連携した計画推進を図るため、一関市長寿社会課職員に検証チーム会議に参加を求めた。

また、地域福祉計画及び地域福祉活動計画の推進にかかる調査、「一関市の地域づくりに関する調査」「総合相談に関する調査」「一関市における福祉避難所での災害支援に関する調査」を市と共同で実施した。

### 2. 地域福祉推進のための課題解決

検証チーム職員がワークショップ形式により、地域課題についてどのように取り組んだか、また、地域福祉推進のための課題について今後どの様に改善していくべき良いかに焦点をあて検討している。平成 29 年度は、地域福祉推進の課題である「地域福祉活動の人材不足」に対しての具体的改善策について、「次世代育成」、「事業の推進」、「職場環境」の 3 つの項目に分け、改善策を検討した。

「次世代育成」については、中高生から地域に繋がるシステム作りや児童生徒へ向けた福祉教育プログラムを作成すること、等を行う。「事業の推進」については、職員研修による資質の向上や職員間の情報共有を進めること、等を行う。「職場環境」については、楽しく仕事ができる環境作りをし、モチベーションアップを図る、等を行うことを改善策とした。

また、地域福祉推進のための課題解決の取組みについて、法人運営懇談会で説明し、役員と共に、役員から助言をいただいた。この、役員の助言をもとに、改めて、職員で課題解決の取組みについて検討した。

その中で、「福祉の伝え方に工夫が必要」については、福祉を身近に感じていただく取り組みとして、地域住民に福祉施設を広く知ってもらえるようなイベントの開催や、社協広報やボランティア講座を通じた周知、等を行う。「外と協力して事業を起こす創造型で、業務に取り組むことが必要」については、業務を抱え込まず、情報共有して他機関や団体と協力する。「組織の目的に加え、やりがいを感じることが必要」については、意見を出しやすい人間関係の構築や役割分担を考えていく、等の改善策を検討し、法人運営懇談会で役員と共有した。

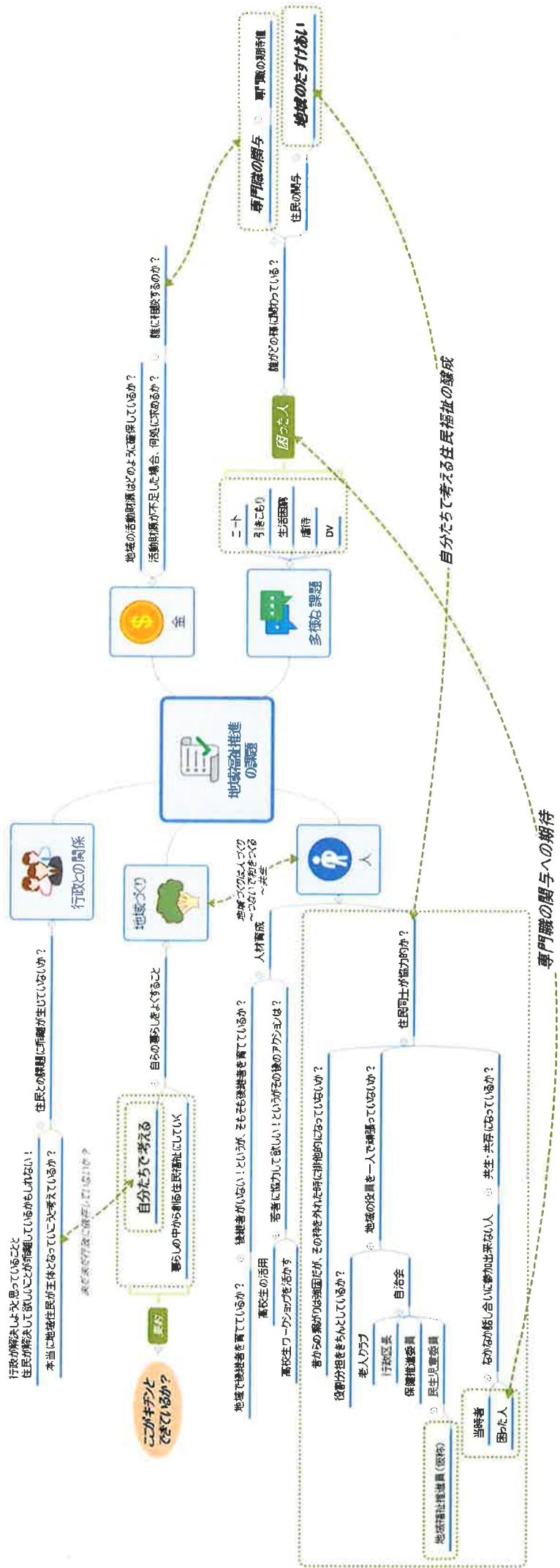
### 3. 地域福祉活動計画 進行管理・内部評価シートでの検証

平成 28 年度事業報告や平成 29 年度の社協活動状況も含め、進行管理・内部評価シートに落とし込み、検証を行った。

(検証内容)

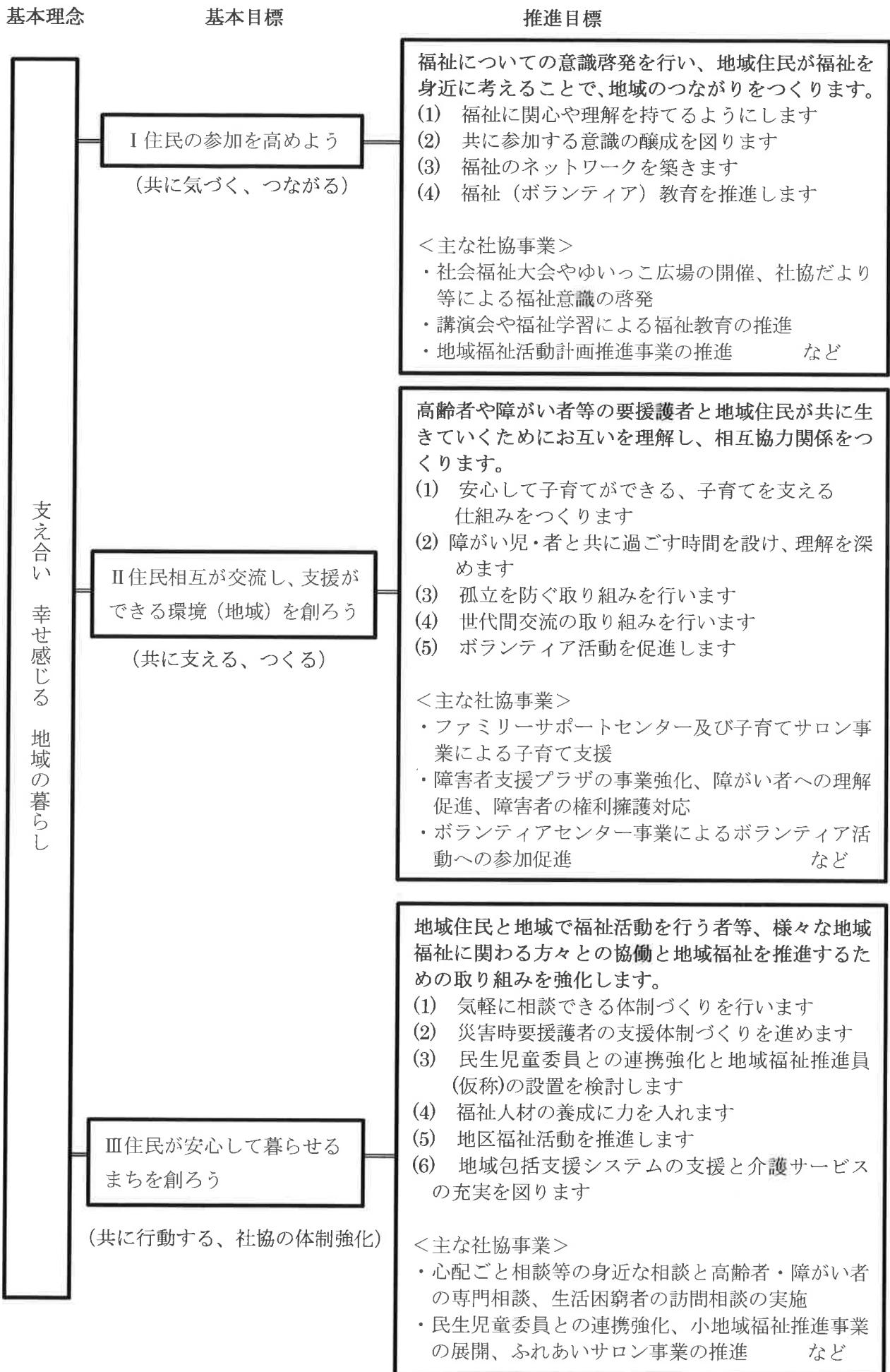
(ア) 基本目標毎に年次推進目標を設定し、基本目標を進めるための推進目標に対し、事業展開の成果、進捗評価、取り組みの課題、課題解決のための改善内容・取組方針を内部検証した。

(イ) 社協事業計画においては、内部検証の結果を活かし、地域福祉活動計画の基本目標「①住民の参加を高めよう」「②住民相互に交流し、支援が出来る環境を創ろう」「③住民が安心して暮らせるまちを創ろう」の3つに事業分類し、本計画を意識した地域福祉事業の計画を行った。



平成 29 年度課題解決にどの様に取り組んだか？		今後どの様に改善して行けば良いか？
1. 地域福祉活動の 人材不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校での福祉教育の実施 (コミュニケーションの方法、キャップハンディ体験、認知症についての講話)</li> <li>・高齢者を対象とした講演会の開催</li> <li>・地域づくり講演会の開催</li> <li>・ボランティアスクールの開催</li> <li>・高校生ワークショップの実施</li> <li>・初任者研修…講師をやった・高校生や専門学生の参加があった</li> <li>・職員研修の実施(年 4 回)</li> <li>・業務の分担やスケジュール管理を行い、仕事を教え合って後任を意識した仕事をした</li> <li>・サロン代表者研修会の実施やふれあいサロンレクリエーション研修会の開催</li> <li>・子育てサロン事業でボランティアの協力をもらった</li> <li>・支部福祉まつりで中学校生徒会に赤い羽根共同募金に取り組んでもらった</li> <li>・ふくしまつりで福祉標語、福祉川柳コンクールを行った</li> <li>・ふくしのまちづくり講演会年 2 回の開催</li> <li>・事業の役割を伝え、不足する部分は地域住民に見守り等協力をお願ひした</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が地域に貢献できる取り組みの実施(まちづくりへの提言等)</li> <li>・小中高生が地域に興味を持てる内容でのイベントの開催</li> <li>・業務内容の見直し(簡略化、役割分担)</li> <li>・年齢層のバランスを考慮した採用計画</li> <li>・育成した人材を逃がさない。定着させる</li> <li>・育成された人材を連れてくる</li> <li>・分野別での職員研修</li> <li>・法人運営懇談会を通じた役員との情報交換</li> <li>・支部広報等で案内や PR を行う</li> <li>・他業種とそれぞれの思惑で事業展開</li> <li>・地域の得意分野を持っている人材を把握する</li> <li>・民生児童委員と社協事業を連携して推進</li> <li>・ボランティアセンターを活用する(ボランティア人材バンク?)</li> <li>・中高生ボランティア 学校側の体制作り</li> <li>・ボランティア協力校との事業協力</li> <li>・小中高生へ向けた福祉活動の情報発信を続ける</li> </ul>
2. 関係機関との繋 がりが弱 い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民協定例会へ参加して情報収集をし、民生委員との関係を深めた。</li> <li>・民協定例会で社協の事業説明を行った</li> <li>・地域福祉の推進として社協事業に民生委員の協力をもらった</li> <li>・認知症カフェの後方支援(主催はグループホーム)</li> <li>・新事業(カフェ)で他機関(包括、在宅介護)と連携</li> <li>・社協のイベントを通じて組織とのつなぎを行えた</li> <li>・社協主催の研修会で昨年より多くの関係機関に案内を配布した</li> <li>・他基幹社協と積極的に情報共有し、事業の進捗状況の確認をした</li> <li>・研修会への参加を通じ、他市町村社協との交流・情報交換を行えた</li> <li>・地域福祉活動推進協議会の会議に参加した</li> <li>・まちづくり協議会の会議・行事への参加、推進員との情報交換</li> <li>・市民センターに足を運び、事業の広報活動・協力を行った</li> <li>・街頭募金ボランティアの依頼をしたこと、他の社協事業にも協力してくれた</li> <li>・保育ボランティアの開催(参加生徒との今後の関わり強)</li> <li>・職員の個別面談の実施(評価・ストレスチェック)</li> <li>・法人運営懇談会を通じ、課題解決の共有を図った</li> <li>・キャップハンディ体験の依頼を受け、職員を派遣し対応した</li> <li>・健康福祉まつり開催に係る連携</li> <li>・シニアスポーツ大会、福祉まつりでボランティア団体に協力をもらった</li> <li>・ひとり暮らし高齢者の集いに民生委員、保健師に協力いただいて運営した</li> <li>・支援会議、老人クラブ芸能まつり、シニアスポーツ大会に参加し、運営協力を行った</li> <li>・市社会福祉大会の開催。地域福祉活動発表講演→取り組み、福祉意識啓発</li> <li>・市と共催で福祉まつりを開催し、福祉作文の表彰・発表会と文集の作成を行った</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係者からさらに人材を紹介してもらう。パイプ作り</li> <li>・権利擁護など専門的な内容の研修会の実施</li> <li>・研修会等の合同開催(関係機関との連携強化)</li> <li>・交流会等、職員間交流がもてる場を作る</li> <li>・事務所間や支部間、職員間での情報共有、情報の活用</li> <li>・支所や関係機関との連絡や相談を密に行い、支援会議等のメンバーに参加していく</li> <li>・人を知る一人を活かす</li> <li>・楽しめる新たな企画を創造する(法テラス研修 etc)</li> <li>・もっと関係機関と連携できそうな事業の見直しをする</li> <li>・オフの時の繋がり(スポ少、市民劇団等)</li> </ul>
3. ゴールが 見えない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標と手段を整理した</li> <li>・支援員に利用者の状況について報告・説明を細めに行った</li> <li>・事業計画による年次目標の設定</li> <li>・事業の進め方について効率化を目指した指導</li> <li>・ゴールから逆算するような計画の策定を指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業に取り組むスケジュールをたてる(いつまでに何をするのかの見通し)</li> <li>・振り返りができる時間の確保</li> <li>・無理な時は無理と言う。適した機関につなげる</li> <li>・他関係機関の事例等を参考にする(事例検討、視察)</li> <li>・関係者、利用者との本音が言える関係づくり(目標設定で足並みを揃える)</li> <li>・スクラップ&amp;ビルト方式での事業計画、事業の整理</li> <li>・事業の整理(統一化も含む)の検討</li> <li>・事業予算における実施目標の明確化</li> <li>・活動計画と事業計画の関連・整理</li> <li>・事業ごとの短期的な目標設定 短期的な目標の積み重ねが長期的な目標になる</li> <li>・成功体験を重ねていく</li> </ul>
4. 財源が不 足している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共同募金や会費の依頼に職員が一丸となって取り組んだ</li> <li>・支部広報、共募チラシを作成し、寄付金や共募の使い道を説明し全戸配布した</li> <li>・支部内の事業所、支所、職場等に募金の協力を依頼した</li> <li>・寄付を新聞・社協広報に掲載</li> <li>・地域団体の県共募助成申請の支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・募金の使い道について具体的な事業やその内容を記載</li> <li>・法人への依頼時の資料や説明資料を充実させ理解を得る(+社協説明)</li> <li>・学校や地域で共募や寄付金の使い道の出前講座をする</li> <li>・寄付者に対して、領収書と一緒に「〇〇に使われています」という文書を渡す</li> <li>・寄付者に粗品を差し上げて感謝を示す</li> <li>・まごころ寄附の充実(広報)</li> <li>・人口・世帯数減を見据えた募金計画</li> <li>・事業を超えて企画することで解決</li> <li>・行政が必要としている部分に手を挙げ、見落としている部分に気づき提案する</li> <li>・可能性のある助成事業に積極的に支部間で共有しながら手を挙げる</li> <li>・助成金の活用について勉強する</li> <li>・新たな公益事業としての「生活困難者支援事業」の実施</li> <li>・募金、自動販売機の設置数を増やす</li> <li>・ライオンズクラブ、ロータリークラブからの事業協力</li> </ul>

◎ 地域福祉活動計画体系図にみる地域福祉の推進

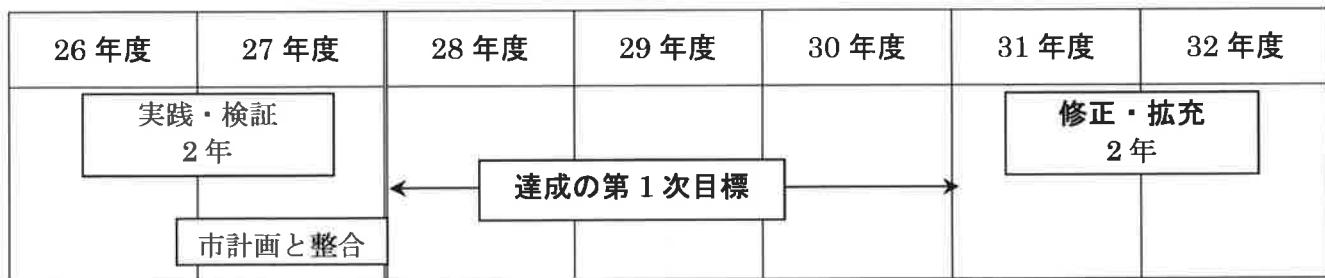


## I 基本目標

住民の参加を高めよう

(共に気づく、つながる)

## ◎年次推進目標



## ◎事業展開・進捗評価・課題・改善内容（取組方針）

## (1) 推進目標 福祉に关心や理解を持てるようにします

実施計画	福祉を身近に考える取り組みを推進します
事業展開に対してどのような成果（結果）があったか	
<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度は、小学生や中学生が福祉標語・川柳（室根168展）や福祉作文（花泉176展）に継続的に取り組むことにより「福祉」について関心が深まった。</li> <li>ボランティア協力校として、平成29年度は市内17校（小学校9校、中学校7校、高校1校）を指定し、福祉学習の助成を行うことで、教員・児童生徒が「福祉」について関心を持ち、理解が深まっている。</li> <li>また、大東支部事業では福祉学習助成事業を取り入れ継続的に福祉学習ができるように支援を行った。</li> <li>「福祉」を広くとらえ地域福祉についての関心を深める機会として、福祉のまちづくり講演会等（東山、室根）を開催し、地域住民の理解を深めた。</li> </ul>	
課題	課題
概ね順調だが不十分な点が少しある	<ul style="list-style-type: none"> <li>「福祉」に関心を持つ機会として様々な事業を展開しているが、視野を広げ事業拡大する必要がある。平成30年度に向けてまちづくり協議会と連携した事業展開を検討する必要がある。</li> <li>福祉施設が地域開放施設を目指し地域と関わるきっかけづくりが必要である。</li> </ul>
課題解決のための改善内容・取組方針	
<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度には、地域福祉コーディネーターを配置し、事業拡大やまちづくり協議会との連携のきっかけづくりを行う。地域の事業に出向き、取材を通して、住民に「福祉」を知つてもらう機会を増やす。</li> <li>福祉施設等の行事を通じて地域住民が関わる機会を増やし、地域ぐるみの福祉を考える場になるよう進める。</li> <li>地区推進協や自治会、老人クラブなど地域団体を巻き込み事業を推進していくことで視野を広げた事業展開に繋げていく。</li> <li>社会福祉大会や広報等で学校での取り組みを紹介することで、より「福祉」に関心を持ち住民理解に繋げていく。</li> </ul>	

実施計画	要援護者（高齢者や障がい者など）と共に取り組む福祉学習の実践
事業展開に対してどのような成果（結果）があったか	
<ul style="list-style-type: none"> <li>支部で行う福祉まつり（花泉：240人、大東500人、千厩：参加者3500人、室根：参加者300人、藤沢：参加者300人、川崎：参加者300人）は、さまざまな福祉団体や地域団体が要援護者（障がい者や高齢者）と自ら関わりを持つことで、自立や社会参加を促進し、共にその要援護者の拡大も図ることが出来た。また、福祉意識の啓発にも繋がった。</li> <li>各支部で実施した福祉学習（キャップハンディ体験）でピアカウンセラー（29年度は29件派遣）や要援護者（地域の当事者）が関わり要援護者の理解を深めた。</li> <li>中学校、高校が福祉学習やボランティア講座の中で、要援護者（障がい者）の生活状況などを傾聴し共に生きる心を育んだ。（29年度参加者 ボランティアスクール：中高生延べ28名、保育ボランティア体験：高校生延べ16名、室根介助体験：中学生21名）</li> <li>要援護者から講話を聞くことで、子供から親に感じたことを伝え世代を超えて関心や理解がもてた。</li> </ul>	

進捗評価	課題
概ね順調だが不十分な点が少しある	<ul style="list-style-type: none"> <li>要援護者との関わりやピアカウンセラーが地域に関わっている状況に違いはある「共に生きる」考えを伝えるための拡充が必要と感じる。</li> <li>施設や事業所が持つ機能や技術を生かした福祉啓発が不十分なところもある。</li> <li>市社協全体の福祉まつり開催目標が達し、地域ごとに他団体を巻き込んだ開催に繋げているが、まだうまく巻き込んだ共同開催にできていない部分もある。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>要援護者が地域の一員として関わり「共に生きる」考え伝える機会が増えるよう様々な場面で協力体制を整えていく。</li> <li>支部で開催している福祉まつりが、様々な団体と取り巻き地域ぐるみで祭りを開催し当事者理解や児童生徒の心育む機会としていく。</li> </ul>

実施計画	福祉意識の啓発を進めます
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
<ul style="list-style-type: none"> <li>第12回一関市社会福祉大会(来場者 550名) 住民一人ひとりが福祉の担い手であり受け手であることを確認した。</li> <li>各支部でまちづくり計画に関わり会議に参加し福祉意識の啓発に努めた。</li> <li>ホームページをリニューアルし(H28:アクセス件数 10,301件)シニア活動プラザ 3,952件 社協活動 1,543件 各支部だより 1,360件 社協事業や活動紹介など情報公開することで「福祉」を知る機会に繋がった。</li> <li>まちづくり協議会やまちづくり計画に関わることで、住民と共に福祉について考える機会となり連携が図れた。</li> </ul>	
進捗評価	課題
概ね順調だが不十分な点が少しある	<ul style="list-style-type: none"> <li>子供から高齢者まで幅広く地域や福祉を知る機会や考える機会、活動する機会がうまく活用できるような提供が不十分な点もある。</li> <li>ホームページがリニューアルしたが、子供の興味もてるような段階まではまだ到達しておらず年次目標に向けて工夫していく必要がある。</li> </ul>
課題解決のための改善内容・取組方針	
<ul style="list-style-type: none"> <li>当初計画のチラシを発行することで意識啓発に繋げるのではなく、市社協だよりや支部便りなどをを利用して特集号などを活用して福祉啓発に繋げる。</li> <li>ホームページリニューアルを更に工夫し、児童生徒向けの部分も作成し、「福祉」を知る、考える、活動する機会に繋げる。例:「福祉ってなに?」「社会福祉協議会ってなに?」「赤い羽根ってなに?」「キャップハンディ体験ってどんなこと?」</li> </ul>	

## (2) 推進目標 共に参加する意識の醸成を図ります

実施計画	②-1 住民の声掛けによる参加が高まるような取り組みを推進します
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
<ul style="list-style-type: none"> <li>地区推進協、地区民児協、地域協働体等の会議への出席や、小地域福祉推進事業での関わりを通して、地域の現状や課題の把握に努めた。</li> <li>室根地域では、地域住民の方々と地区や集落の課題・解決策等を話し合うため、住み良いまちづくりを目指し出張懇談会を行った。(参加者数 延 60人)</li> <li>藤沢地域では、高齢者世帯や一人暮らし高齢者及び一人暮らし障がい者等の生活を支えるため、介護保険サービス以外の必要とされるライフヘルプ(家事援助や通院介護、身の周りの援助など)サービスをボランティアの協力を得て行った。(登録者数 8人、利用件数 9件、ボランティア登録数 6人)</li> </ul>	
進捗評価	課題
概ね順調だが不十分な点が少しある	<ul style="list-style-type: none"> <li>市全域で取り組めていない。</li> </ul>
課題解決のための改善内容・取組方針	
<ul style="list-style-type: none"> <li>地域課題や地域のまちづくりプランは、市まちづくり推進課、地域協働体と情報共有を図る。</li> <li>地域課題の把握について、各種会議での情報収集のほか、日頃からの住民・団体等からの情報が重要なので、引き続き情報収集に努め、地区推進協、民生児童委員、地域協働体、行政(市長寿社会課、市まちづくり推進課)等の関係者間で共有する。</li> </ul>	

実施計画	②-2 地域福祉啓発事業の促進と展開を図ります
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中高生ボランティアスクール、高校生保育ボランティア体験(一関地域・千厩地域)、入門ばらんていあ塾等各種ボランティア講座の開催のほか、福祉講義及び学校での体験指導への職員派遣を通し、福祉に関心と理解が持てるよう取り組んだ。(職員派遣件数 48 件)</li> <li>・福祉まつりの開催を通して、福祉を知る機会、きっかけとした。(参加者数 千厩 540 人、室根 350 人、川崎 400 人、藤沢 300 人)</li> <li>・社協だよりや支部だより、ホームページ、広報、チラシにより、社協の事業や開催行事、各支部の情報、地域活動団体等について周知することができた。(社協だより 4 回発行、支部だより 17 回発行(花泉 3 回、大東 4 回、東山 2 回、室根 3 回、川崎 2 回、藤沢 3 回)、ホームページトップページ閲覧件数 10,301 件)</li> </ul>	
進捗評価	課題
順調に進んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社協だよりは年4回の発行だが、タイムリーな情報提供が難しい。</li> <li>・支部だよりとの記事掲載分担等をどうするか。</li> <li>・講演会、講座について拡充が必要。</li> <li>・社会資源のネットワーク構築のため、社会資源について情報収集が必要。</li> </ul>
課題解決のための改善内容・取組方針	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社協だよりの発行回数、発行時期を見直す。</li> <li>・ボランティアセンター事業等と連携し、講演会や講座を拡充する。</li> <li>・団体、組織の情報(サービス)等の社会資源について把握する。</li> </ul>	

実施計画	②-3 小地域福祉推進活動への活動助成を行います
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
活動助成金の交付により、各種講演会、地域行事への協働・参加、世代間交流など住民の自主的な地域福祉活動を支援することができた。(活動助成金交付 一関 11 地区、花泉 7 地区、大東 6 地区、千厩 4 地区、東山 1 地区、室根 20 行政区、川崎 1 地区、藤沢 40 自治会 計 90 地区)	
進捗評価	課題
概ね順調だが不十分な点が少しある	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰越金がある地区がある。</li> </ul>
課題解決のための改善内容・取組方針	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動助成金を交付した成果について、検証を行う。</li> <li>・住民の自主的な地域福祉活動をより効果的に支援するため、活動助成金のあり方について検討を進める。</li> </ul>	

### (3) 推進目標 福祉のネットワークを築きます

実施計画	地域活動団体の交流促進を図り、福祉ネットワークづくりに努めます
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の団体・ボランティアとの協力体制を図るため、福祉大会、各支部まつり等を開催した。 (H28 福祉大会 550 人参加、各支部事業・花泉支部 100 人 千厩支部 540 人 室根支部 350 人、藤沢支部 300 人) (H29 福祉大会 400 人参加、各支部事業・花泉支部 240 人、大東支部 500 人、千厩支部 3,500 人、室根支部 300 人、川崎支部 100 人、藤沢支部 300 人)</li> <li>・ふれあいサロン団体の交流の機会として、交流会、サロン祭、活動展等開催した。 (花泉支部 53 人、大東支部 47 人、千厩支部 48 人、東山支部 2 回 63 人、室根支部 73 人、川崎支部 19 人、藤沢支部 51 人)</li> <li>・社協事業の開催により、地域の団体・ボランティアとのネットワーク構築につなげられた。</li> <li>・サロン交流会等により、会員相互の交流が図れ、運営面では、協力関係機関との連携が図れた。</li> </ul>	
進捗評価	課題
順調に進んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての団体が参加しているわけではない。</li> <li>・ネットワークとしての団体に地域的偏りがある。</li> </ul>
課題解決のための改善内容・取組方針	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の団体に可能な限り声掛けを行い、イベントへの参加を促し、繋がりを深める。</li> <li>・ネットワークの有効性を高めるためには、地域的に広く万遍なく活動団体が存在することが重要、団体が無い地区への事業PRも支部だより等を活用し進めて行く。また、既存団体の運営に関する支援を行う。</li> </ul>	

実施計画	地域福祉推進のための関係機関のつながりの仕組みづくりを図ります。
<b>事業展開に対してどのような成果(結果)があった</b>	
・まちづくり協議会、地域支援会議、民協定例会等に出席し、課題対応について協議した。専門機関等との課題対応により、ネットワークづくりを進められた。	
進捗評価	課 題
順調に進んでいる	・ネットワークづくりを進めることができたが、ニーズの収集がもっと必要。 ・まちづくり協議会の動きに格差がある。
<b>課題解決のための改善内容・取組方針</b>	
・ニーズに、迅速に対応することで、案件を通じた専門機関等とのネットワークづくりを進める。 ・まちづくり協議会との連携を深める。	

実施計画	地域課題に応じた地域福祉活動、社会資源の育成・開発を行います
<b>事業展開に対してどのような成果(結果)があったか</b>	
・支部毎、支部運営委員会議(年2~4回)、民生児童委員協議会議(毎月)まちづくり協議会議(毎月)、地域支援会議(隔月)、関係機関の会議等での課題の収集を行った。 ・地域課題解決について、取組みが進んでいる地域がある。	
進捗評価	課 題
順調に進んでいる	地域課題の解決について、取組みが進んでいる地域とそうでない地域がある。
<b>課題解決のための改善内容・取組方針</b>	
・地域課題については、地域支援会議等と情報共有を進める。 ・各種団体の会議はもちろん、住民・団体等からの日々の情報収集に努め、情報については、早期に協議し対応する。 ・自治会、推進協、まち協福祉部等と視察研修(となりまち等身近な地域)、交流会を検討する。	

#### (4) 推進目標 福祉（ボランティア）教育を推進します

実施計画	体験プログラム・福祉学習プログラムの充実を図ります ①児童生徒の体験プログラムのメニューや内容の充実
<b>事業展開に対してどのような成果(結果)があったか</b>	
福祉学習を行った一部の児童・生徒については、要援護者のうち、障がい者の理解の醸成と高齢者への優しさの心を醸成する機会となったと考える。(一関4、花泉4、大東11の小中学校児童・生徒だけの実施に留まっている)。 夏期休暇を利用した中高生ボランティアスクール(①災害支援について学ぼう、②子育て支援について学ぼう、③バリアフリーマップを作ろうの3コース)の充実を図り、延べ高校生7名・中学生21名の参加、保育ボランティア体験で延べ高校生9名の参加を得たことは成果である。 ボランティア、災害支援活動、子育て支援活動、障がい理解・まちづくり活動に関わり、福祉のまちづくりをすすめるとともに、自身を見つめる機会となつたと考える。	
進捗評価	課 題
概ね順調だが不十分な点が少しある	地域福祉担当者研修を実施し、指導内容の統一を目指している。今後は、状況に併せた指導の実践を重ねる必要がある。
<b>課題解決のための改善内容・取組方針</b>	
児童・生徒の福祉学習の体験プログラムや内容については、社協指導者間で情報共有を図り、生徒児童に対する指導内容の統一に向けた研修を進めている。併せて、夏期休暇を利用した中高生ボランティア体験プログラムの充実を図る(千厩地域における保育ボランティア体験の実施、中高生ボランティアスクールにおける延べ参加者増、防災やまちづくりの体験メニューの増)。 生徒児童への統一した取り組みが行えるよう、行政への協力を求め、協力体制を整える。	

実施計画	体験プログラム・福祉学習プログラムの充実を図ります ②地域におけるプログラムの検討・開発
------	---

事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
地域福祉推進を担う高校生が一関市の地域課題を考える場として、ワークショップを行い、地域課題に対し、高校生が自ら行えること、行政に依頼しなければいけないこと等を考える福祉教育プログラムとして実施できた。	
進捗評価	課 題
概ね順調だが不十分な点が少しある	体験プログラムについて、一般向け研修会の充実を図る必要がある。
課題解決のための改善内容・取組方針	
体験プログラムについては、一般向け研修会として、シニア活動プラザやボランティア連絡協議会との共催を進めていく。	

実施計画	体験プログラム・福祉学習プログラムの充実を図ります ③福祉学習サポーターの養成・設置の検討
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
福祉学習サポーター養成は未開発であり、実施には至っていない。	
進捗評価	課 題
実施方法も含め改善が必要である	福祉学習サポーターについては、市、社協、学校、地域住民等で、必要性を共有することから始める必要がある。そのためにも、市教育委員会の協力が必要である。 次期地域福祉活動計画へ向けて事業計画内容の検討が必要である。
課題解決のための改善内容・取組方針	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉学習を進める福祉学習サポーター(学校教諭、主任児童委員、地域住民等)の養成・設置については全国的な事例で有効性があるとされているが、当市における必要性については市、社協、学校、地域住民等で必要性を共有できていない。</li> <li>・行政への協力を求め、協力体制を整える。</li> <li>・次期地域福祉活動計画へ向けて事業計画内容の検討を行う。</li> </ul>	

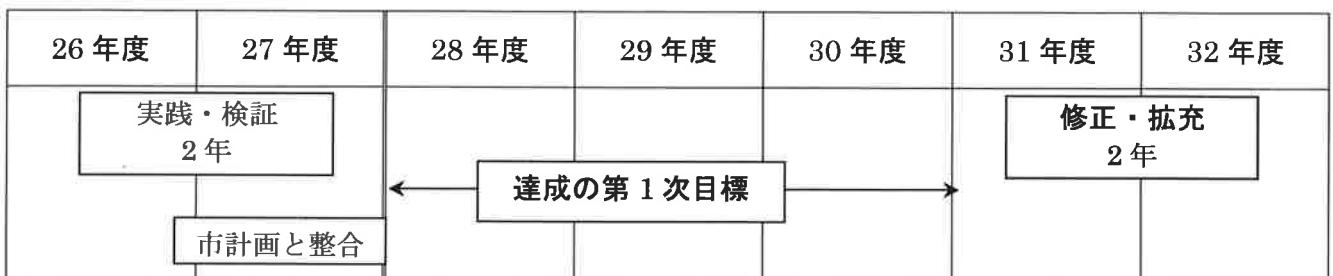
実施計画	要援護者(高齢者や障がい者など)の理解を育む学習を推進させます。
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
福祉学習を行った一部の児童・生徒については、要援護者のうち、障がい者の理解の醸成と高齢者への優しさの心を醸成する機会となったと考える(一関7、花泉2、大東10の小中学校児童・生徒だけの実施に留まっている)。健康づくり課が実施し、社協が協力をした精神障がい者(当時者)理解の研修会では、地域住民や支援者、高校生等の参加を得て実施でき、当時者理解を深める機会となった。	
進捗評価	課 題
実施されている部分もあるが不十分な点が多い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障がい者(当時者)理解の研修会は、一定の成果があったが、他の障がい者の理解につながったとはいえない。</li> <li>・学校の福祉学習は一部児童生徒のみの指導であり、指導内容が統一されていない。</li> </ul>
課題解決のための改善内容・取組方針	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域における要援護者の理解について、特に障がい者理解の学習として、福祉学習を通じた理解促進の取組みを継続し、障がい者との関わる機会を作つて行くなど、地域の一員としての要援護者観を育むことによる地域の支え合いを進める。</li> <li>・児童生徒に対しては、指導する側(社協、当時者、学校教諭など)が共通理解のもと、指導を行つて行かなければならない。まずは、社協職員が福祉学習に対する指導を学習し、統一的な指導を行つていく。</li> </ul>	

実施計画	児童生徒の地域参加と交流の機会や場の提供を図ります。
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア協力校の児童生徒が地域課題に取り組む機会は少ない。</li> <li>・高校生ワークショップでは地域課題の解決方策において、学生ができるとして、地域に関わって行くことがあげられた。</li> </ul>	
<b>進捗評価</b>	<b>課題</b>
実施されている部分もあるが不十分な点が多い	・ボランティア協力校事業では、地域との関わりが少ないので、地域課題への取組みについて、学校と一緒に取り組むことが必要である。
<b>課題解決のための改善内容・取組方針</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア協力校事業を通じ、児童生徒の地域参加と交流は継続していく。地域課題に取り組む機会については、清掃活動などの奉仕活動や募金活動の取り組みを中心に継続支援していく必要がある。</li> <li>・高校生ワークショップでは地域課題の解決方策において、地域に関わって行く機会を作り、学生ができる活動をまとめたことから、次にはその活動を実践することを支援する必要がある。</li> </ul>	

## II 基本目標 住民相互が交流し、支援ができる環境(地域)を創ろう (共に支える、つくる)

### ◎年次推進目標



### ◎事業展開・進捗評価・課題・改善内容（取組方針）

#### (1) 推進目標 安心して子育てができる、子育てを支える仕組みを作ります

実施計画	一関市ファミリーサポートセンターの利用促進を図ります
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
登録者数は増傾向にあり、前年度 522 名から 33 名増の 555 名。 主な要因として、家庭の事情により身内に頼めないこと(人間関係、保護者よりも祖父母が現役で就労中等)、保育施設の充実に伴い働く母親が増えたこと(保育園を利用できない際にファミサポを利用する)による。研修会、交流会においては、他会員との交流によって刺激が得られ、会員同士のつながりの機会、情報交換の機会になると会員から好評を得ている。	
<b>進捗評価</b>	<b>課題</b>
概ね順調だが不十分な点が少しある	<ul style="list-style-type: none"> <li>・預かり会員の確保。特に東磐井地区での預かり会員が少ない。</li> <li>・研修会・交流会を開催しても新規の会員は参加せず、いつも参加するメンバーが固定化している。</li> <li>・障がい児や養護児の相談、送迎の相談が増えている。</li> </ul>
<b>課題解決のための改善内容・取組方針</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・預かり会員の研修について、特に東磐井地区の充実を目的に会員養成のため研修会の開催が必要。</li> <li>・資格がないため、子どもを預かることの責任の重さなど負担がかかり、リスクも大きい。事業を詳しく説明することにより、会員になることの不安解消に努める必要がある。</li> <li>・障がい児への対応として、基幹相談支援センターで研修会を行った。</li> <li>・可能な限り、緊急でも対応するようにしている。</li> <li>・社協だよりでの掲載を増やし、周知の機会を持つ。</li> </ul>	

実施計画	子育てサロンへの助成支援を行います
<b>事業展開に対してどのような成果(結果)があつたか</b>	
サロン設置数は前年度 12 力所から 2 力所減の 10 力所。参加者数は 206 名から 44 名減の 162 名。その要因として、保育施設の増加や近所に子どもがいないために保育園に入園するといったことが挙げられる。共働きの親が増えているために、子どもを保育園に預けざるを得ない状況にある。子育てサロンの構成は育児サークルの会員が中心。	
進捗評価	<b>課題</b>
実施されている部分もあるが不十分な点が多い	<ul style="list-style-type: none"> <li>市での子育て支援対策が充実したことや、子育て広場が利用され始めたことの影響もあるのか、サロン設置数が年々減少傾向にあり、増える見込みがない。</li> <li>在宅の子どもが減少し、親の獲得が難しい。</li> <li>助成の申請要件を満たすことが難しく、申請に繋がらない子育てサロンがある。</li> </ul>
<b>課題解決のための改善内容・取組方針</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>子育てサロン事業の見直し等も含め、市との協議を引き続き進めていく。その中で、要綱の見直し、助成の申請要件を緩和することにより、サロンの普及に努める。</li> <li>孤立している地域や市の広場が利用できないなど、サロンが必要なところには引き続きサポートを行っていく。</li> </ul>	

実施計画	養育者の孤立や育児ストレスによる児童虐待防止の啓発に努めます(関係機関との連携強化) ①ファミリーサポートセンター事業及び子育てサロン事業における児童虐待防止の啓発
<b>事業展開に対してどのような成果(結果)があつたか</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>養育者とは違った立場の預かり会員との関わりの中で、開放感により子ども自身がのびのびと過ごす面がみられる。</li> <li>養育者も、ファミリーサポートセンターで預け先が見つかったことにより気持ちが楽になったとの話しが聞かれる。子育てサロンにおいては、より多くの人の関わりを求めて、別のサロンへ参加している方、地域を跨いで参加される方もみられる。</li> </ul>	
進捗評価	<b>課題</b>
概ね順調だが不十分な点が少しある	参加者が流動的であることから、継続した関わりや見守り体制が作られにくい。
<b>課題解決のための改善内容・取組方針</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>古くから運営されている子育てサロンについては、参加者も協力者の立場で関わることができる。</li> <li>最近の傾向として定期開催している場所を選択して参加する保護者が多くみられるので、他機関で行っている事業や検診の機会を活用、連携を取りながら、交流の場づくり、機会の提供が必要となる。</li> </ul>	

実施計画	養育者の孤立や育児ストレスによる児童虐待防止の啓発に努めます(関係機関との連携強化) ② 地域住民の児童虐待防止への理解促進と関係機関との連携の強化
<b>事業展開に対してどのような成果(結果)があつたか</b>	
必要に応じて関係機関に情報提供を行いながら、早期対応と継続訪問等の見守り体制を組むことができた。	
進捗評価	<b>課題</b>
概ね順調だが不十分な点が少しある	<ul style="list-style-type: none"> <li>要保護児童対策が地域課題であることについて、意識付けが難しい</li> <li>各種会議で要保護児童対策の課題を共有すること</li> <li>預かり会員等から報告があっても、本人から相談がない限り直接関わることができない。</li> </ul>
<b>課題解決のための改善内容・取組方針</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>民生児童委員連絡協議会への参加を通じて、各委員からの情報収集及び相談対応を継続する。</li> <li>一関市子ども・子育て支援会議へ継続参加し、問題提起を行う。</li> <li>民生児童委員に事業 PR を行うとともに、虐待があった場合には報告をするようお願いする。</li> <li>併せて学校や保育園に対しては、虐待など心配な方がいらっしゃれば、ファミリーサポートセンターへ相談していただくよう促している。</li> </ul>	

(2) 推進目標 障がい児・者と共に過ごす時間を設け、理解を深めます

<b>実施計画</b>	障がいや障がい児・者への理解を図ります
<b>事業展開に対してどのような成果(結果)があったか</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>教育の場で、障がい・障がい者理解の場が設定されることで、家庭・地域への理解が広まった。</li> <li>精神障がいを持つ当事者も参加した研修会において、ボランティア育成につながる、障がいの理解を深める機会が得られた。</li> <li>地域住民を対象者にした障がい者理解の場をもつことができた。</li> <li>希望郷いわて大会への応援を通して、地域の人が障がい・障がい者への理解を深める機会を得た。</li> </ul>	
<b>進捗評価</b>	<b>課題</b>
順調に進んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域交流の中心となる住民を育成する</li> <li>協力者(地域住民、障がい児・者)を増やす</li> </ul>
<b>課題解決のための改善内容・取組方針</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>障がいの理解を図る総合学習など、継続的な取り組みを行うこと。また研修会や学習を終えた地域住民が、地域で障がい児・者と交流する機会を持つようにすることで、更なる広い範囲での地域で障がい理解促進の活動を目指す。</li> <li>希望郷いわて大会への応援を通して、地域の人が障がい・障がい者への理解を深める機会をつくる。</li> </ul>	

<b>実施計画</b>	障がいや障がい児・者との交流する場を設けます
<b>事業展開に対してどのような成果(結果)があったか</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者・障がい児の保護者から地域の福祉に関する意見を聞く場を設けたこと、その中で関係がつくられたこと。</li> <li>障がい者相談員が活躍する場があり、活動成果が公共の場で活かされた。</li> </ul>	
<b>進捗評価</b>	<b>課題</b>
概ね順調だが不十分な点が少しある	<p>障がい関係者団体との意見交換会の実施(H26実施)をもとに、障がい福祉に関する地域の声を取り上げる機会をつくること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会的に孤立することがないよう、地域とのつながりを持ちながら、安心した生活が送れる社会づくり。</li> </ul>
<b>課題解決のための改善内容・取組方針</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉施設調査やアンケートによる結果、障がい者関係団体等からの意見をまとめ、自治会・行政区には地域課題として共有する。</li> <li>希望郷いわて大会への応援を通して、地域の人が障がい・障がい者への理解を深める機会をつくる。</li> </ul>	

<b>実施計画</b>	障がい児・者による地域活動への参加を促進します
<b>事業展開に対してどのような成果(結果)があったか</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>地域に生活している障がい児・者について、地域住民から知る機会を得た。</li> <li>障がい者と施設職員から地域活動に関する意見を聞く機会が得られた。</li> <li>季節ごとの行事、創作・ボランティア活動による障がい者の社会参加の機会をつくった。</li> </ul>	
<b>進捗評価</b>	<b>課題</b>
概ね順調だが不十分な点が少しある	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい児・者が地域生活を行う上での課題に対して、個別支援にとどまってしまう場合があり、地域の人と協力した支援を展開すること。</li> </ul>
<b>課題解決のための改善内容・取組方針</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい児・者の社会参加と地域生活を支援するため、個別支援のほかに、地域と協力した、障がい福祉に関する活動を施設・事業者へ働きかける。</li> </ul>	

<b>実施計画</b>	障がい児・者相談事業所との連携強化を図ります
<b>事業展開に対してどのような成果(結果)があったか</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉施設・事業所等との関係がより緊密になった。</li> <li>新たに障害者自立支援協議会の活動を周知するホームページを作成した(閲覧件数 1,168 件)</li> </ul>	
<b>進捗評価</b>	<b>課題</b>

概ね順調だが不十分な点が少しある	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基幹相談支援センターの委託と、自立協の運営に伴う、地域の福祉施設・事業所との関係強化を図る。</li> <li>・障がい児・者や地域からの要望を、地域の課題として取り上げ、検討していく流れをつくること。</li> </ul>
<b>課題解決のための改善内容・取組方針</b>	
地域の課題を、自立支援協議会の仕組みを利用しながら、検討し解決する流れをつくる。そのため、基幹相談支援センターの活動を通じ、福祉施設・事業所との関係づくりをして、地域の障がい福祉の充実を目指す。	

### (3) 推進目標 孤立を防ぐ取り組みを行います

実施計画	日常生活における暮らしの安全・安心を確保します(見守り活動などを通じた孤立を防ぐ取り組みへの支援)①地域団体によるひとり暮らし高齢者等支援や見守り活動を支援します
<b>事業展開に対してどのような成果(結果)があったか</b>	
ふれあいサロンをはじめとした日常的な「見守り」活動の推進について、社会福祉協議会としてのどう位置づけるかを検討していく必要がある。地域福祉推進員(仮称)の設置については、主体となる市が地域福祉計画に位置づけられるよう、社会福祉協議会として支援できる部分の検討が必要。	
進捗評価	<b>課題</b>
概ね順調だが不十分な点が少しある	地域福祉推進員(仮称)の役割の明確化と有効性について情報収集支援し、事業展開に当たっては市の財源確保が課題となる。(市の地域福祉計画への位置づけが必須)
<b>課題解決のための改善内容・取組方針</b>	
地域福祉推進員(仮称)の設置については、仮に設置への動きが推進する場合、同推進員との連携が求められる民生児童委員や高齢者総合相談センター(地域包括支援センター)との意見のすり合わせが必要(地域福祉推進員と民生児童委員の役割の明確化など)と思われる。他地域での類似の制度等についての情報収集支援も必要。	

実施計画	日常生活における暮らしの安全・安心を確保します(見守り活動などを通じた孤立を防ぐ取り組みへの支援)②高齢者総合相談センター(地域包括支援センター)の相談窓口の充実を図ります
<b>事業展開に対してどのような成果(結果)があったか</b>	
社協のそれぞれの相談窓口による対応により、専門機関に取り次ぎ、課題解決に導かれるよう支援出来た。	
進捗評価	<b>課題</b>
概ね順調だが不十分な点が少しある	既存の相談窓口の数的部分は継承しながら、より地域住民に身近な福祉総合相談窓口となっていける様、改善が必要である。
<b>課題解決のための改善内容・取組方針</b>	
配置される専門職の職員数に依存することなく、より地域住民と顔の繋がった関係性を構築出来る様、年度毎の人材配置を含め、社協内部で検討していく。	

実施計画	要援護者が住み続けられる環境の整備を図ります。 (ちょっとした支援、暮らしの助け合いの促進)
<b>事業展開に対してどのような成果(結果)があったか</b>	
小地域を単位としてのふれあいサロンが、高齢者等の生きがいづくり、寝たきり・閉じこもり予防活動の役割を果たしている。	
進捗評価	<b>課題</b>
概ね順調だが不十分な点が少しある	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあいサロンの世話人に対する運営面を含めた相談、高齢者総合相談センターと連携した介護予防活動や総合相談機能の充実</li> <li>・身近な生活課題や要望の集約への支援</li> <li>・ふれあいサロンに行けなくなった方の他の制度へのつなぎ等</li> </ul>
<b>課題解決のための改善内容・取組方針</b>	

ふれあいサロン運営について世話人等の運営スタッフの育成支援や運営方法等を含めた支援を行い、サロンを始めやすい環境になる様支援していく。サロンの充実強化も含め、地域福活動コーディネーターの配置を検討していく。

#### (4) 推進目標 世代間交流の取り組みを行います

<b>実施計画</b>	様々な地域活動を通じた世代間の交流の場づくりを共に考えます。 ①自治会及び町内会住民活動
<b>事業展開に対してどのような成果(結果)があったか</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「健康福祉まつり」や「福祉交流まつり」を開催し、世代間の交流の場づくりを実施した。</li> <li>・各地区の敬老会に園児などのお遊戯発表を設け、地域の高齢者と子供たちが交流できる場の提供を継続している。</li> <li>・健康ふれあいウォーキングの実施により、健康づくりを行いながら地域の世代間交流や障がい者と交流を図った。</li> <li>・異世代間が交流することで、つながりを築きイベントを盛り上げることができた。</li> <li>・イベントに参加していただくだけでなく、健康づくりや楽しみながら交流できている。</li> </ul>	
<b>進捗評価</b>	<b>課題</b>
順調に進んでいる	世代間交流活動事業が少ないので増やしていきたい。
<b>課題解決のための改善内容・取組方針</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事や活動でリーダーとなる若い世代の活動を紹介すると共に、地域活動について世代間交流ができる機会を増やしていく。</li> </ul>	

<b>実施計画</b>	様々な地域活動を通じた世代間の交流の場づくりを共に考えます。 ②老人クラブ活動
<b>事業展開に対してどのような成果(結果)があったか</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供会の季節行事に参加し、昔の遊びや文化を教えながら交流を図った。</li> <li>・児童見守り活動を実施して、子供たちの交通安全を見守り関わりを持った。</li> <li>・地域の季節行事に参加することで、伝統文化の継承や指導の大切さを学び、伝承する機会となっている。</li> <li>・子供たちの安全を見守りながら、関わっていることが両世代にとってメリットがある。</li> </ul>	
<b>進捗評価</b>	<b>課題</b>
概ね順調だが不十分な点が少しある	・老人クラブで世代間交流できていると思われるが、把握しきれていない。
<b>課題解決のための改善内容・取組方針</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・老人クラブ事務局と連携し情報交換していく必要がある。</li> </ul>	

<b>実施計画</b>	様々な地域活動を通じた世代間の交流の場づくりを共に考えます。 ③ふれあいサロン事業
<b>事業展開に対してどのような成果(結果)があったか</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫祭や農業体験などの手伝いをして、園児や児童と交流や農業指導を継続して行っている。</li> <li>・地域の保育園や福祉施設に慰問し交流を図った。</li> <li>・教え伝えていく学び合いが、子供たちにもサロンにも地域生活や生涯学習として役立っている。</li> </ul>	
<b>進捗評価</b>	<b>課題</b>
概ね順調だが不十分な点が少しある	・ふれあいサロン単体で活動しているグループが多く、外部交流しているグループが少ない。
<b>課題解決のための改善内容・取組方針</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的にサロン研修を行い、他サロンの交流活動を紹介するなど、情報発信していきたい。</li> <li>・ふれあいサロンのグループが異世代と交流できるように、各団体と連携を図り、交流に結びつくような調整を図る。</li> </ul>	

実施計画	様々な地域活動を通じた世代間の交流の場づくりを共に考えます。 ④福祉施設との連携
<b>事業展開に対してどのような成果(結果)があったか</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉体験「夏休み・福祉体験チャレンジ」の実施により、小中学生の福祉職場体験を通じて、デイサービスの利用者との出会いや交流を図った。</li> <li>・地域の保育園や幼稚園と連携を図り、園児たちと交流を図った。</li> <li>・ボランティアセンター事業の「ボランティア協力校」の取組みで、慰問ボランティア活動等を通じて福祉施設での交流を図った。</li> <li>・介護職員と交流もでき、介護現場の理解や進路選択や福祉教育の推進ができる。</li> <li>・児童、生徒と要援護者が関わることで、学びの機会や要援護者の生活のハリや心のやすらぎにつながっている。</li> </ul>	
進捗評価	課題
順調に進んでいる。	福祉や利用者に対して、偏見や誤解がないように配慮する必要がある
<b>課題解決のための改善内容・取組方針</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生側や福祉施設と事前学習や打合せを行い、関わる上での注意点や福祉に対する生徒の理解を事前に深めておく必要がある。</li> <li>・施設側と多様な場面で協力・相談できるような連携体制を構築する。</li> </ul>	

実施計画	様々な地域活動を通じた世代間交流の場づくりを共に考えます。 ⑤子育てサロン事業
<b>事業展開に対してどのような成果(結果)があったか</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てサロンの活動に、中高生の参加による読み聞かせや手遊びなどをして交流や、季節行事に地域の高齢者を招くなど継続して行っている。</li> <li>・中高生にとって、子育てや保育についての理解、福祉教育の推進が図られている。</li> <li>・世代間交流によって、情報交換の場が作られている。</li> </ul>	
進捗評価	課題
概ね順調だが不十分な点が少しある	・子育てサロン単体で活動しているグループがほとんどで、世代間交流しているグループが少ない。
<b>課題解決のための改善内容・取組方針</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファミリーサポートセンター事業で、世代間交流できる企画や情報発信をしていく必要がある。</li> <li>・子育てサロンのグループが異世代と交流できるように、各団体と連携を図り、交流に結びつくような情報発信を心がける。</li> </ul>	

実施計画	様々な地域活動を通じた世代間交流の場づくりを共に考えます。 ⑥伝統食文化、伝統技能の伝承、郷土芸能等保存活動等
<b>事業展開に対してどのような成果(結果)があったか</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「健康福祉まつり」や「福祉交流まつり」を開催し、サロンや高齢者が伝統芸能を各世代に披露し交流する機会を設けた。</li> <li>・地元の伝統食文化や伝統芸能等の歴史や習わしに触れる機会となり、伝統を提供する側にとっても、活動の成果を披露する場を持つことができた。</li> </ul>	
進捗評価	課題
概ね順調だが不十分な点が少しある。	・事業の減少により、伝統文化を伝承する場が減少している。
<b>課題解決のための改善内容・取組方針</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統芸能を次世代に継承するために、地域やまちづくり協議会など各団体と連携を強化し、伝統芸能の普及活動を図る。</li> <li>・福祉まつり等のイベントの中に、企画として伝統食文化や伝統芸能を組み入れることで関わる機会を増やす。</li> </ul>	

実施計画	世代間交流にかかるコーディネートを担います。
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり協議会に参加し、地域行事に関わることにより、関係団体と協力体制を構築した。</li> <li>・世代間交流に関わる関係団体と、連絡調整や情報共有を継続して行っている。</li> <li>・まちづくり協議会のイベントや事業に参加したことで、世代間交流活動の内容や郷土芸能や文化があるのか学ぶことができた。また、お互いの事業への協力体制が構築できた。</li> </ul>	
進捗評価	課題
概ね順調だが不十分な点が少しある	・関係団体のネットワークづくりを強化する必要がある。
課題解決のための改善内容・取組方針	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係団体への情報提供や支援体制により、協力体制を強化していく必要がある</li> </ul>	

## (5) 推進目標 ボランティア活動を促進します

実施計画	ボランティアセンターを周知し、ボランティア活動の充実を図ります
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
<p>【事業展開】社会福祉協議会が社協だより及び支部だよりにより市内全世帯へ情報発信。</p> <p>29年度社会福祉協議会でボランティア講座を開催(ボランティアスクール中高生延べ28人参加、高校生保育ボランティア体験高校生延べ9人参加、花泉支部庭木の剪定講座延べ25人参加、室根支部夏休み福祉体験チャレンジ中学生21人参加)。</p> <p>【成果】毎年、広報による情報発信や各種講座を継続実施していることにより、社会福祉協議会及びボランティアセンターの事業の周知が図られている。ボランティア活動保険加入者数が28年度1,886人だったこと。28年度の台風10号被害における岩泉町等の現地災害ボランティアセンターや29年度の秋田県豪雨災害に係る現地災害ボランティアセンターに本市からも多数のボランティアが駆け付けたことなどから、市民のボランティア活動への関心が高まってきている。</p>	
進捗評価	課題
順調に進んでいる	体験プログラムや研修メニューの増加は今後も進める必要がある。29年度は社協職員向けに災害ボランティアセンター運営に係る研修会を実施したところであるが、更なる拡充が必要と思われる。
課題解決のための改善内容・取組方針	
<p>体験プログラムや研修メニューの増加はニーズを確認しながら進める必要がある。また、社協職員向け、ボランティアの担い手向け、地域住民向けなどの災害ボランティア研修会も企画、実施していきたい。</p>	

実施計画	地区単位(地区福祉活動推進協議会など)、自治会・行政区におけるボランティア活動を促進します
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
<p>【事業展開】ふれあいサロンに対し支部毎に各種研修会・交流会を開き、世話人ボランティアの奨励を図った。子育てサロンに対し世話人研修会や交流会を開き、世話人ボランティアの奨励を図った。</p> <p>小地域福祉推進事業として、推進協、自治会等93箇所に活動助成をし、交流会や見守り活動等を支援した。また一関市シニア活動プラザでは28年度に学習機会の提供として、社会貢献啓発講演(40人参加)、社会貢献セミナー(4回延べ21人参加)、活動交流発表会「シニア・フェスタ2016」(来場者2,393人)、希望学習会(延べ469人参加)を開催した。</p> <p>【成果】28年度のふれあいサロンは前年比7箇所増で362箇所、実施回数3,994回、28年度の子育てサロンは前年比2箇所減で10箇所となったが、継続して地域ボランティアが活動する場となっている。また一関市シニア活動プラザでは様々な学習機会が提供され、小地域推進事業のボランティア活動推進に寄与した。</p>	

進捗評価	課題
概ね順調だが不十分な点が少しある	協働のまちづくりが進められている中、地域ボランティア活動の推進をどのように位置づけるか、地域との共通認識を深めていきたい。
<b>課題解決のための改善内容・取組方針</b>	
自治会・行政区など身近な地域におけるふれあいサロン・子育てサロンの活動における地域ボランティアを継続的に奨励します。 地区福祉推進協議会等が行う交流会、見守りなどを支援し、地域住民相互の支え合いを基本としたボランティア活動が促進されるよう、学習会の開催などに努めます。	

実施計画	新しいボランティア活動の提案と担い手を育てます。
<b>事業展開に対してどのような成果(結果)があったか</b>	
【事業展開】ネットワークの構築については、地域の団体・ボランティアとの協力体制を図るため、各支部において福祉まつり等を開催した。花泉地域保健福祉まつり(市共催)240人参加、社協大東支部福祉まつりゆいっこ広場500人参加、せんまや健康福祉まつり(市共催・産業文化祭と合同開催)3,500人参加、むろね社協ふくしまつり(産業文化祭と合同開催)300人参加、かわさき健康福祉まつり(市共催)300人、藤沢支部福祉交流まつり(産業文化祭と合同開催)300人参加。 一関市シニア活動プラザは、シニア活動情報の発信としてホームページの運営(29年度1月末時点3,952件閲覧、前年度同時期3,520件)、シニアプラザレター(2,400部・年4回)発行した。また学習機会の提供として、講演会、社会貢献セミナー、活動交流発表会、希望学習会を行った。また地域の任意団体の拠点づくりに寄与するため、団体登録を進めている。 また藤沢支部で27年度から始まった「ライフヘルプサービス事業」では、地域内における高齢者世帯や一人暮らし障がい者等の生活を支えるため、介護保険以外の必要とされるライフヘルプサービスをボランティアの協力を得て行った。29年度1月末時点で実績8件(前年度同時期8件)。 【成果】福祉まつり等の開催により、地域の団体・ボランティアとのネットワーク構築につなげられた。 一関市シニア活動プラザは、29年度1月末時点で来所相談受付66件(前年度同時期39件)と相談実績が増えた。また地域の任意団体の拠点づくりとなる団体登録も52団体(前年度44団体)と増え、地域に認知されて来ている。 藤沢支部のライフヘルプサービス事業はボランティアが活躍する新規事業として順調に展開できている。	
進捗評価	課題
概ね順調だが不十分な点が少しある	ネットワークにおいて、多くの団体と連携できているが、さらに拡充していく。
<b>課題解決のための改善内容・取組方針</b>	
ネットワークの構築に向け、地域の団体等へ事業参加をより一層呼びかけ、繋がりを深める。 一関市シニア活動プラザにおいては情報発信、学習機会の提供を継続すること。 また地域交流講座をシルバー人材センターと共に開催するなど、関係団体との連携を図っていく。 ボランティアが活躍する新しい機会を、これからも検討していく。	

### III 基本目標 住民が安心して暮らせるまちを創ろう (共に行動する、社協の体制強化)

#### ◎年次推進目標



#### ◎事業展開・進捗評価・課題・改善内容（取組方針）

##### （1）推進目標 気軽に相談できる体制づくりを行います

実施計画	総合相談体制構築への取り組みを行います～身近な相談の場づくりの強化
事業展開に対してどのような成果（結果）があったか	
<ul style="list-style-type: none"> <li>心配ごと相談所を本部に開設、花泉・大東・千厩・藤沢地域は移動相談会を開催し住民が気軽に相談出来た。また、開設日数は前年比8日増の59日間実施した。相談事項では老人福祉に関することが前年度比8件増の23件、離婚に関することが前年度比6件増の18件となった。</li> <li>社協ホームページや広報紙、チラシにて、多くの方々へ情報発信に加えて、フェイスブックを利用しての更なる拡散ができた。また、問い合わせの際「広報を見た」、「ホームページを見た」等の声が散見された。</li> <li>見守りによる、安否確認や相談の早期発見、地域の方々の福祉的な課題や意見交換が行えた。</li> </ul>	
進捗評価	課題
概ね順調だが不十分な点が少しある	<ul style="list-style-type: none"> <li>心配ごと相談等、地域により実施状況の違いがある。</li> <li>心配ごと相談の開催地域の検討。</li> <li>地域性に沿った内容の事業実施が必要。</li> </ul>
課題解決のための改善内容・取組方針	
<ul style="list-style-type: none"> <li>事業計画作成時における、地域性を検証した上で内容を立案、実施状況の評価や目標設定を行う。</li> <li>実施に向けての担当者と関係者による検討会議などの取り組みを行う。</li> <li>他機関との連携を強化し、相談やつながりを強化し体制を構築する。</li> <li>プライバシーの観点から、他の地域の相談員配置をするなど相談しやすい体制をつくる。</li> <li>アンケートなどを通じて、情報発信の効果を数値化を図る。</li> </ul>	

実施計画	総合相談体制構築への取り組みを行います～繋がる相談体制づくりの強化
事業展開に対してどのような成果（結果）があったか	
<ul style="list-style-type: none"> <li>各種協議会や公的団体とは組織間としてネットワーク構築が図られた。</li> <li>各相談事業所と関係機関との連携は概ね図られ、相談支援で有効に実施された。</li> </ul>	
進捗評価	課題
概ね順調だが不十分な点が少しある	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談内容の多様化により、今までかかわりが薄かった関係機関と民間サービス団体等との連携方法が課題。</li> <li>連携向上の指標となるものが必要。</li> </ul>
課題解決のための改善内容・取組方針	
<ul style="list-style-type: none"> <li>今後、連携の必要性を強く感じている団体について、各事業所へアンケートなどの方法で把握し、繋がりを強化出来る取り組みを検討する。</li> <li>個別の実践事例を通じ連携を深めるほか、事例検討会や情報交換会の数値化を図る。</li> </ul>	

実施計画	総合相談体制構築への取り組みを行います～専門的な相談体制づくりの強化
<b>事業展開に対してどのような成果(結果)があったか</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各専門的相談事業の運営を通して、住民から寄せられる多種多様な相談を担当相談員が電話、面接、訪問等の方法により個別対応し、課題解決が図れるよう努めた。</li> <li>・基幹相談支援センターとして、地域を巡回しながら地域課題の整理や協議を行った。支援内容については、困難ケースに関することが前年比 655 件増の 819 件、計画相談に関わることが前年比 119 件増の 173 件、相談支援事業部会との連携に関わることが前年比 8 件増の 20 件、地域移行・地域定着に関わることが前年比 56 件増の 64 件、成年後見制度に関わることが前年比 6 件増の 10 件、障害者差別解消法に関わることが前年比 4 件増の 6 件であった。</li> <li>・生活困窮者自立支援事業として、包括的かつ継続支援をしながら関係機関との連絡会議や民生児童委員等の周知を通じ、地域における自立・就労支援等の体制の構築に努めた。</li> </ul>	
進捗評価	<b>課題</b>
概ね順調だが不十分な点が少しある	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営費がそれぞれ異なるので、経営計画が必要。</li> <li>・緊急性の高い相談についての対応策。</li> <li>・相談受け入れから、解決にまでに係る実施状況の成果や評価方法の検討。</li> <li>・各支部等との情報共有が不十分である。</li> </ul>
<b>課題解決のための改善内容・取組方針</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各事業別に年度計画を立案し実施する。</li> <li>・指導的役割の職員を育成し配置する事で、相談業務の専門性向上が図れるようにする。</li> <li>・年間実績の報告内容を検討し、活動状況の評価をしやすくし、今後の実践に活かせるようにする。</li> <li>・各支部や関係機関との連携を図り、情報共有の場、協議の場を設ける。</li> </ul>	

## (2) 推進目標 災害時要援護者の支援体制づくりを進めます

実施計画	平常時の支援体制を構築します
<b>事業展開に対してどのような成果(結果)があったか</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急連絡カード(3,824 世帯)を通じ、災害時要援護者の把握に努めた。また、市民児連協で実施した緊急連絡カード点検強化月間に協力した。</li> <li>・一部地域では災害を想定した防災訓練を実施し、災害時の支援体制の醸成を行った。</li> <li>・一部地域では小学生を対象とし、防災マップ作りを行い、防災教育の醸成を行った。</li> </ul>	
進捗評価	<b>課題</b>
概ね順調だが不十分な点が少しある	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急連絡カード名簿の整備と活用</li> <li>・地域における日々の防災対策が醸成されていない</li> </ul>
<b>課題解決のための改善内容・取組方針</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域協働体、自治会、自主防災組織などとの連携による、住民への防災意識の醸成を図るため、市まちづくり担当課と一緒に、地域協働体などへ意識の高揚に向けた働きかけを行う。</li> <li>・災害時の助け合いにつなげるため、地域防災組織、地域協働体などによる、防災訓練やマップづくりなどの推奨を行うとともに、実施する場合、協力をする。</li> </ul>	

実施計画	災害時の支援体制を構築します
<b>事業展開に対してどのような成果(結果)があったか</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難行動要支援者名簿(1,725 人)の提供を受け、災害時要援護者の情報を共有した。</li> <li>・岩手県防災ボランティア支援ネットワーク連絡会議に出席し、防災ボランティア体制を協議した。</li> <li>・岩泉町で災害ボランティアセンターの運営支援を行った(派遣職員 26 名、派遣日数延べ 131 日)。</li> </ul>	
進捗評価	<b>課題</b>
実施されている部分もあるが不十分な点が多い	避難行動要支援者名簿提供による情報の共有はされたが、災害時の支援体制として、行政と地域の協働・連携の構築が図られていない

### 課題解決のための改善内容・取組方針

- ・平常時から災害時の支援体制を、行政及び地域(自主防災組織、地域協働体など)とともに協働し、支援体制の構築を図る。
- ・災害ボランティア研修等への参加により、災害ボランティアセンターの運営を担う職員を養成するとともに、地域組織やボランティア団体などと研修などを通し、災害時の支援体制を構築していく。

### (3) 推進目標 民生児童委員との連携強化と地域福祉推進員(仮称)の設置を検討します

実施計画	地域の要支援者等の状況を把握できるよう、必要な情報の共有を進めます
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
市から要支援者名簿が提供されるようになったことで、円滑な活動につながった。	
進捗評価	課題
順調に進んでいる	市との協働により、継続した取り組みが望まれる。
課題解決のための改善内容・取組方針	
要支援者の情報提供について、社協は、関係機関との連携の他、必要に応じて住民組織などの地域団体に協力を呼びかけ、民生児童委員活動に協力します。要支援者の支援に必要な情報の共有を推進します。	

実施計画	地域福祉推進員(仮称)の設置を検討するための調査研修を行います
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
市と社協は、一関市民生児童委員連絡協議会などの関係団体と協働しながら、地域福祉計画策定アドバイザーの東北福祉大学総合福祉学部の都築教授と同大学の研究室学生の協力を得て調査を行い、課題を把握することで計画推進につなげた。	
進捗評価	課題
概ね順調だが不十分な点が少しある	市の地域福祉計画と社協の地域福祉活動計画に基づいた調査研究を行っており、地域福祉計画策定アドバイザー都築教授の協力を得ながら段階的に進める必要があります。
課題解決のための改善内容・取組方針	
市と社協は各調査の結果を基に、一関市民生児童委員連絡協議会や地域団体と連携して計画を推進します。調査研究は地域福祉計画策定アドバイザー都築教授の協力を得ながら推進します。	

実施計画	民生児童委員、主任児童委員との連携を強化します
事業展開に対してどのような成果(結果)があったか	
社協職員は各地区民協定例会議に出席し、地域福祉事業を共に推進しながら、民生児童委員が抱える課題も同時に共有することができた。	
進捗評価	課題
順調に進んでいる	平成28年度に民生児童委員の改選があり、新任の民生児童委員が多くなった。そのため関係機関や、住民組織などの地域団体との連携については、各種活動が円滑になるよう社協職員が間に入って関係づくりをすることが望まれている。
課題解決のための改善内容・取組方針	
社協は、社会福祉法人や関係機関、地域団体との間に入ってサポートします。民生児童委員、主任児童委員の活動をサポートする仕組みづくりについて継続して推進します。	

実施計画	地域福祉推進員(仮称)になる担い手を育て、地域福祉活動の充実を目指します ①広報の充実
<b>事業展開に対してどのような成果（結果）があったか</b>	
社協だよりに民生児童委員の日に合わせ、民生委員制度が100周年を迎えた記事や、民生児童委員活動紹介の記事を掲載した（社協だより38号、42号等）。地域住民に民生児童委員活動の理解が少しずつ深まり協力的になってきた。	
進捗評価	課題
順調に進んでいる	市の地域福祉計画との整合性を図りながら行う必要があります。
<b>課題解決のための改善内容・取組方針</b>	
孤立を防ぐ取り組みなど、他の推進目標（活動計画）と共に広報による住民への周知を図ることで、担い手の育成につなげます。	

実施計画	地域福祉推進員(仮称)になる担い手を育て、地域福祉活動の充実を目指します ②地域における助け合いの関係作り
<b>事業展開に対してどのような成果（結果）があったか</b>	
社協の事業を通して民生児童委員と地域団体（推進協や行政区長、自治会長、老人クラブ等）との連携をお願いした。また、社協は行政区長や民生児童委員、地域からの推薦者等に福祉委員を委嘱し、支部ごとに地域に根ざした取り組みを行った。各種事業を推進する中で互いの連携が深まった。	
進捗評価	課題
順調に進んでいる	社協事業を通して行っている地域団体と民生児童委員の関わりを大切にする取り組みは、継続が望まれています。
<b>課題解決のための改善内容・取組方針</b>	
民生児童委員活動への理解や関係づくりは、地域団体と連携しながら推進します。 更に各担当区においては、民生児童委員だけに負担をかけことなく、地域で要支援者を支える意識作りを育むことが、担い手の育成につながるものと思われます。	

#### (4) 推進目標 福祉人材の養成に力を入れます

実施計画	住民主体の地域福祉活動を担う新たな人材の発掘と養成に努めます
<b>事業展開に対してどのような成果（結果）があったか</b>	
ボランティアに関する研修や地域福祉活動の進め方について、地域や学校等からの依頼があり、講義及び体験指導（障害理解PR活動含む）を通じ、地域の高齢者、障がい者や子育ての親などと関係がつくられ、その中から地域福祉活動を担う人が少しずつ育ちはじめている。	
進捗評価	課題
概ね順調だが不十分な点が少しある	・一般向けの地域人材養成については、地域福祉計画の実践過程の中で養う必要がある。 ・リーダーの後継者は短期では育たないので、時間をかけて育てる環境が必要である。
<b>課題解決のための改善内容・取組方針</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>専門的な対応が必要となっていることから、社協としては職員研修の充実を図るほか、各種専門研修の参加機会を提供するなど、職員の資質と対応能力のさらなる向上に努める。</li> <li>地域福祉計画及び地域福祉活動計画の実践過程で人材発掘と養成に取り組む。（市が行う一関市介護職員研修（初任者研修・実務者研修）奨励金や一関市介護保険施設等人材育成支援事業などの助成事業、介護従事者（若手・中堅・管理者）向け研修。社協が取り組む介護職員初任者研修事業など）</li> </ul>	

<b>実施計画</b>	福祉職の人材養成と組織の強化に取り組みます。
<b>事業展開に対してどのような成果(結果)があったか</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社協の業務で専門職としての実践・研修を積むことで、仕事に向かう意識・意欲の向上に繋がったとともに、業務改善を図るための契機ともなっている。</li> <li>・将来福祉職を目指す学生に対し、ソーシャルワーク等実習指導・養成研修を行い(7名)、専門職を養成し、就労またはスキルアップにつなげた。</li> <li>・受講生14名を得て、介護職員初任者研修事業を大東支部で実施し、事業所の人材確保につなげた。</li> </ul>	
<b>進捗評価</b>	<b>課題</b>
概ね順調だが不十分な点が少しある	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護人材の養成は一部支部での実施であるが、事業推進において、他法人等との協働も視野にいれた展開も必要である。</li> <li>・今後、専門職養成は現場実習に重きを置く方向であるとともに、分野に捕らわれない指導を行える社協の役割は大きいと考える。</li> <li>・福祉職は賃金、労働形態等から、応募しても求職者が来ない状況にあるが、職員、人材の質がサービスの質に直結することから、優れた人材を確保し、やる気を向上させるなどの定着づけが大切となっていく。</li> </ul>
<b>課題解決のための改善内容・取組方針</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護人材の育成は社会福祉充実計画の展開の中で新たな取組みを進めていく。</li> <li>・専門職養成と併せ、職員研修等を通じ、職員の専門性を高めることを進めていく(職員研修の充実や専門研修の参加機会を提供など)。</li> <li>・福祉の職場のイメージはきつい仕事、給与が低い仕事、将来の不安等のマイナスイメージが生じているので、キャリアアップ支援やモチベーションアップ等が必要(役員等との課題共有や職員によるワークショップ、研修の実施などで対応していく)。</li> </ul>	

## (5) 推進目標 地区福祉活動を推進します

<b>実施計画</b>	ふれあいサロン事業の充実・機能強化を図ります
<b>事業展開に対してどのような成果(結果)があったか</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあいサロンへの参加は高齢者の健康増進や閉じこもり防止につながっている。また、自治会や福祉活動推進協議会など地域での協力体制がある地域では、新たなサロンの立上げや世話人の引継ぎがされて更なる充実が図られ、行政との連携による介護予防の取組みや栄養指導の充実にもつながっている。</li> <li>・平成28年度は362所3944回で、平成27年度の355所4120回と比較し7カ所増、176回減となった。また、各サロンへ活動助成を行った。</li> <li>・ふれあいサロンの代表者や世話人を対象に研修会や交流会を行い、情報交換やサロン運営の悩み等を共有した。また、福祉まつりや市民センターまつりでサロンでの取り組みや作成した作品展示を行い、活動の充実化を図った。</li> </ul>	
<b>進捗評価</b>	<b>課題</b>
概ね順調だが不十分な点が少しある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者が高齢化しているふれあいサロンでは、世話人に負担が集中するため世話人(担い手)のなり手が無く解散に至ってしまうサロンや、活動メニューに苦慮している世話人もいる。</li> <li>・近くに集会施設が無い事などが、サロン活動の妨げの理由となっている地域もあり、今後も引き続きサロン活動への支援が必要である。</li> </ul>
<b>課題解決のための改善内容・取組方針</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・サロンの担い手不足の解消に向けては、各サロンが開設地区の自治会や行政区に協力を依頼し地域全体で関わっていくことも必要である。併せて行政や社協も、サロン活動に関わる世話人等に対して研修会、懇談会を実施し長期にわたり活動を支援することが必要である。また、行政や社協がサロンや地区に出向き、取材や行事等に関わり、サロンの活動を支援しながらPRしていくことが必要である。</li> </ul>	

実施計画	地区福祉活動推進協議会等の組織づくりを図ります
<b>事業展開に対してどのような成果(結果)があったか</b>	
・地区福祉活動推進協議会やこれに代る組織が既に作られている地区では、助成金を活用して自治会や老人クラブ等の各種団体、また市民センターや学校、保育園とも連携し多くの住民が参加交流できる福祉活動を実施している。	
進捗評価	<b>課題</b>
概ね順調だが不十分な点が少しある。	・地域課題を解決できる組織が地域によって異なるため、事業実施に向けては地域住民による十分な協議が必要である。また地域によっては、今後の地域協働体設立も見据える必要がある。
<b>課題解決のための改善内容・取組方針</b>	
・地域福祉活動を推進する組織としての地区福祉活動推進協議会、まちづくり協議会への組織化を推奨するとともに、組織化をすることで効果的な活動が行えるような助成について検討する。 ・地域福祉の推進体制において、自治会・行政区単位↔旧村単位(地区)の活動展開を説明し、社協として積極的に関わっていくことが必要である。	

実施計画	小地域福祉活動の充実・強化を図ります
<b>事業展開に対してどのような成果(結果)があったか</b>	
・防災訓練やひとり暮らし高齢者等の見守りの連携等が進められた。 ・各ひとり暮らし高齢者の懇談会は、社協各支部で行っており、平成28年は567人が参加し、平成27年の523人より44人増加し、地域で孤立を防ぐ活動の一つとして浸透している。 ・地区福祉活動推進協議会や社協支部において、独自の事業をとおし、ひとり暮らし高齢者等に対して支援の充実化を図れた。	
進捗評価	<b>課題</b>
概ね順調だが不十分な点が少しある。	地域支え合いの状況の違いなどで、地域課題の把握に差がある。
<b>課題解決のための改善内容・取組方針</b>	
・住民個々が地域課題を認識するための懇談会開催や地域でのリーダー育成を行う必要がある。 ・地域協働体と地区福祉活動推進協議会の役割分担と事業の連携、双方を進める必要がある。 ・行政、社協職員が地域に出ていき、課題の発見や解決に向けた活動の支援を進めていく。	

## (6) 推進目標 地域包括ケアシステムの構築と介護サービスの充実を図ります

実施計画	地域包括ケアシステムの構築と介護サービスの充実を図ります
<b>事業展開に対してどのような成果(結果)があったか</b>	
・社協で受託している高齢者総合相談センター(地域包括支援センター)の職員が、地域福祉活動計画の実践検証に関わっており、介護サービスの充実に地域福祉の考え方方が生かされている。 ・介護保険事業の財源を地域福祉事業へ活用することで、地域福祉の推進が図られている。 ・地域包括ケアシステムにおける住民主体で担う福祉サービスとして、ふれあいサロンが定着している。	
進捗評価	<b>課題</b>
概ね順調だが不十分な点が少しある。	・住民主体の生活支援サービスの拡充
<b>課題解決のための改善内容・取組方針</b>	
・地域福祉活動計画の実践検証を通じて、少しづつ住民主体の考え方方が広がってきているため今後も継続して住民と一緒にサービスを考えていく住民協働の実践を積み重ねていく必要がある。また、計画の策定を通じて浮き彫りになった生活課題を一つずつ解決していくことで介護サービスと連携する生活支援サービスの拡充に繋げる。	